

学校名	山形市立第九小学校 山形市馬見ヶ崎二丁目5番1号 TEL 023-681-3600 FAX 023-681-3518	校長	佐藤 浩子
		研究主任	佐藤 かおる
研究主題	<p align="center"><b>豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成（2年次）</b> <b>～4つの資質・能力の追究～</b></p>		
研究主題設定の理由	<p><b>【研究主題設定の理由】</b></p> <p><b>(1) 児童の実態と課題から</b></p> <p>本校では、学校教育目標を「未来を拓く人間力のある子どもの育成」、重点目標を「豊かなくらしを自ら創り出す子どもの育成」と掲げている。そのような子ども達を育てるためには、4つの資質・能力「向上心」「自己指導力」「伝え合う力」「思いやり」が必要であると考えます。昨年度は、1年次として、「課題設定」「学び合い」「振り返り」の3つの観点を大切にして授業実践を行ってきた。教育活動全体で、教師も児童も常に4つの資質・能力を意識して教育活動に向かう姿勢ができたことは大きな成果であったが、「聴き合い」「学び合い」において課題が残った。そこで、今年度も、本校の子ども達に付けたい資質・能力を大きく4つに掲げ、学校全体で共有し、その力を付けていくための授業を日常的に続けていくことで、深い学びに迫っていききたいと考える。そして、その資質・能力を付けることで、豊かなくらしを自ら創り出す子ども達を育てていきたい。</p> <p><b>(2) 学習指導要領の内容を受けて</b></p> <p>学習指導要領では、知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養の実現をめざし、学校教育全体を通して、育てたい資質・能力を明確にしながら教育活動の充実を図るものとしている。また、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、子どもの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められている。さらに、教科等横断的な視点に立って教育課程を編成し、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を身に付けていく必要がある。これらのことから、本校でも、子ども達に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、カリキュラム・マネジメントを効果的に実践しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて追究していく。</p> <p>以上のことから、上記のように研究主題を設定した。</p>		
主題・副主題につ	<p><b>【主題・副主題について】</b></p> <p>○ <b>豊かなくらしを自ら創り出す子どもとは</b> 社会や生活の様々な変化を前向きに受け止め、自他共に価値ある存在として尊重し、協働しながら様々な課題を乗り越え、豊かな生活を主体的に創り出していく子どもと捉えている。</p> <p>○ <b>4つの資質・能力の追究とは</b>  <b>向上心：進んで挑戦し、やり遂げる力</b>  失敗を恐れず、高みを目指して果敢に挑戦し、試行錯誤や再挑戦を繰り返しながら、あきらめずに粘り強くやり遂げる力  <b>自己指導力：自分で自分を正しく導く力</b>  よりよい生き方を目指して、正しいと思う行為を自分で判断し実行していく力  <b>伝え合う力：聴き合い話し合う力</b>  互いの考えをしっかりと聴き合い、よりよい方法を生み出す話し合いをする力  <b>思いやり：自分も相手も大切にする心</b></p>		

<p>い て</p>	<p>相手を共感的に受け止め、違いを認め合い、自他共に尊重しながら寛容な心で接する力</p> <p>本校で掲げる「豊かな暮らしを自ら創り出す子ども」を育てるためには、上記の4つの資質・能力を付けることが必要であると仮定する。このことから、学校教育活動すべてにおいて4つの資質・能力を付けることを意識していく。その中でも特に、子どもを育てる核となる日常の授業において、単元の中でどの力をどんな手立てで伸ばしていくかを日常的に考えていく。</p>																		
<p>研 究 の 重 点</p>	<p><b>【研究の重点】</b></p> <p>4つの資質・能力を育成する授業実践から研究主題に迫る授業づくりについて学ぶ。授業者がその授業で育てたい資質・能力の身に付いた子どもの姿を明確にし、課題設定や学び合い、ふり返りの場面で効果的な手立てを模索していく。学年部を中心に事前研や教材研究を十分に行い、質の高い授業づくりを研究していく。こうして蓄積された成果と課題を日常の授業づくりに生かし、子どもの人間力の向上を図る。</p> <p>今年度は4つの資質・能力の中でも授業に大きくかかわる資質・能力として「伝え合う力」に重点を置き、研究を進めていく。子ども同士が聴き合い・学び合う授業を目指していく。</p>																		
<p>研 究 の 方 法</p>	<p><b>【研究の方法】</b></p> <p><b>(1) 研究組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究全体会、推進委員会、各学年部会、各学年会で組織する。</li> </ul> <p><b>(2) 授業研究</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大研を7回行う。(講師を招聘する。)</li> <li>・教科領域は国語・算数・生活科／総合の3つ。</li> <li>・事前研究は単元構想段階から学年部で行う。</li> <li>・事後研究会は、より深まる話し合いの形式で行う。</li> <li>・「校内研だより (お知らせ)」は、各学年および特別支援学級の研究推進委員が発行する。</li> <li>・「事後研だより」は担当者が2週間以内に配付し、<u>全職員の日常の授業の向上に役立てる</u>。</li> <li>・指導案は遅くとも3日前には配付する。(大研は1週間前)</li> </ul> <p><b>(3) 『研究の日』研修会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週金曜日を「研究の日」とし、授業づくりについて日常的に学び合う場を設定する。</li> </ul>																		
<p>研 究 の 計 画</p>	<p><b>【研究の計画】</b></p> <table border="0"> <tr> <td>4月</td> <td>研究全体会 (今年度の研究の重点、進め方の共有)</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>授業研究会①</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>授業研究会② 全体研修会</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>授業研究会③</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>授業研究会④ 全体研修会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>授業研究会⑤ 全体研修会</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>授業研究会⑥</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>授業研究会⑦ 研究全体会 (今年度のふり返り、次年度に向けて)</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>研究のまとめ、研究集録作成</td> </tr> </table>	4月	研究全体会 (今年度の研究の重点、進め方の共有)	6月	授業研究会①	7月	授業研究会② 全体研修会	9月	授業研究会③	10月	授業研究会④ 全体研修会	11月	授業研究会⑤ 全体研修会	12月	授業研究会⑥	2月	授業研究会⑦ 研究全体会 (今年度のふり返り、次年度に向けて)	3月	研究のまとめ、研究集録作成
4月	研究全体会 (今年度の研究の重点、進め方の共有)																		
6月	授業研究会①																		
7月	授業研究会② 全体研修会																		
9月	授業研究会③																		
10月	授業研究会④ 全体研修会																		
11月	授業研究会⑤ 全体研修会																		
12月	授業研究会⑥																		
2月	授業研究会⑦ 研究全体会 (今年度のふり返り、次年度に向けて)																		
3月	研究のまとめ、研究集録作成																		